

北海道の歴史文化施設活性化に関する懇談会(第2回) 議事概要

- 1 日 時 平成28年11月26日(土) 16:00~17:20
- 2 場 所 北海道博物館 記念ホール
- 3 出席者 (構成員) 臼井 栄三氏(北海道教育大学岩見沢校)、
戎谷 侑男氏((株)シーブーツアーズ)、
佐々木 亮子氏((有)アールズセミナー)、
中田 美知子氏(札幌大学)、
西 吉樹氏((一財)北海道歴史文化財団)、
西山 徳明(北海道大学高等観光学研究センター)、
山崎 幹根氏((国)北海道大学大学院法学研究科・法学部)
(道側) 小玉環境生活部長、佐藤文化・スポーツ局長、柴田文化振興課長
ほか

4 議題

- (1) 第1回北海道の歴史文化施設活性化に関する懇談会 論点整理
- (2) 意見交換

5 概要

第1回北海道の歴史文化施設活性化に関する懇談会の論点整理について説明した後、百年記念施設の現地視察をもとに意見聴取を行った。

【主な意見】

別紙「第2回 北海道の歴史文化施設活性化に関する懇談会 論点整理」のとおり

第2回 北海道の歴史文化施設活性化に関する懇談会 意見概要

百年記念施設全体に対して

- ・公園自体が閑散としている。公園に人が足を運ぶ環境、近郊の住民が使える環境があるとイメージが変わってくる。
- ・条例や規則等を緩和することで地域住民が利用し、閑散としたところに動態的な部分を感じられる事業展開も考えられる。
- ・森林公園駅や高速道路の出口等に百年記念施設への案内表示を行うなど、きてもらうための環境づくりが必要。
- ・この地域を日本遺産に登録してはどうか。
- ・白老の国立アイヌ民族博物館の年間入場者目標数が100万人。この地区も100万人が可能。どうやったら100万人になるか、次回に皆さんと話し合いたい。

1 北海道博物館について

- ・明るく斬新でリニューアル効果を実感した。W i - F iを使った他言語対応のガイドなどスコットランド博物館に共通する点があり工夫されている。また、テーマ別に特色を出した展示、子どもを含めた色々な世代に対応した工夫をしている。
- ・近代以降の展示は、本道の発展や特徴を出す見せ方、切り口もある。
- ・展示の流れや展示手法がすばらしい。漂着物の展示も意外性があって非常に良いアイデア。
- ・少し偏りのあるというか、ターゲットを絞った企画展等は話題性もあり注目を集める。

● 検討の進め方・手続き

- ・条例や規則等を緩和することで地域住民が利用し、閑散としたところに動態的な部分を感じられる事業展開も考えられる。
- ・モニュメンタルなものを建てることは、社会的・公益的責任を背負った判断であり、お金の問題だけでなく、建てた理由、趣旨が本当に失われたのか、達成されたのかなど調べる必要がある。
- ・あと数年経てば50年過ぎて、近代遺産的な扱いとして登録していくこともあり得る。それくらいの幅の中で考え、どうしてもやむを得ないということであれば、道民に説明していくことが必要であろう。

2 北海道開拓の村について

- ・村は、歴史的建造物そのものも、開村以来30年以上にわたり維持してきたことも、大変すばらしい。潜在的な魅力、工夫の余地、可能性が大いにありと再認識した。
- ・街並みが整頓されていて殺風景に感じる。賑わいや生活感が表れるような工夫が必要。
- ・馬車鉄道は走っているものの、動態展示が欠けている。
- ・使っていない建物は老朽化が早く崩壊していく。
- ・ふるさと会を開催する場所として活用する方法もある。
- ・もっと人が集えば建物が生きてくる。どう使ったら良いか、生かし方を研究することが必要。
- ・150年に併せて作業体験ができる補修整備のボランティア作業員を参加料をもらって募集してはどうか。
- ・各市町村とリンケージして、開拓の村に市町村の観光関係者が時々常駐し自分たちの市町村を売り込むようなネットワークをつくれないうか。
- ・修繕が必要な建物をクラウドファンディングで募集して復興させるような周りを巻き込む動きが作れないか。
- ・村の建造物に思い入れが感じられると光って見える。解説をする人が最も重要で、なるほどなと実感させてくれるポイントを聞かせてくれる、言葉の力がある。
- ・今の人たちは何かで参加したり体験したりしたい、そういうことを考えることが必要。
- ・博物館同様、開拓の村の解説員(ボランティア)もどこかで表示すべき。

■ 意識変革

- ・村は、歴史的建造物そのものも、開村以来30年以上にわたり維持してきたことも、大変すばらしい。潜在的な魅力、工夫の余地、可能性が大いにありと再認識した。
- ・もっと人が集えば建物が生きてくる。どう使ったら良いか、生かし方を研究することが必要。

3 北海道百年記念塔について

- ・モニュメントやランドマークとしてかなり親しんでいる人がいて、もし、なくなると、あのエリアに対する認知が薄くなる。
- ・観光の力がこれから大きくなる中で、このエリアの魅力をより発展させる形で考え、その中でモニュメントとしての塔をどう考えるかということが必要。
- ・モニュメンタルなものを建てることは、社会的・公益的責任を背負った判断であり、お金の問題だけではなく、建てた理由、趣旨が本当に失われたのか、達成されたのかなど調べる必要がある。
- ・あと数年経てば50年過ぎて、近代遺産的な扱いとして登録していくこともあり得る。それくらいの幅の中で考え、どうしてもやむを得ないということであれば、道民に説明していくことが必要であろう。
- ・塔の中に入り上がることはそれほど重要視しないが、モニュメントとして、その時代に意図を持って建てたものに対して責任がある。
- ・モニュメントでありシンボルタワーであるが、躯体が朽ちていることを実感し、維持していくのは相当危険と実感した。モニュメントは、場合によっては心の中にしか残らないものかもしれない。
- ・撤去するしか方法はないと思うが、つくった人の思いや夢や情熱を感じ、その精神性をどういう形で表現するか、大きな課題として残る。つくった目的や関係者の名前、佐藤忠良さんの作品や百年記念塔の形など記念碑や何かの形で表現し、それにかわるものを考えなければならない。
- ・これから50年、80年残せるか考えるとかなり厳しい。150年の年に作業現場を見学可能とした解体をし、2万本程度の桜の植樹をして、縦の100mから横に100mといった垂直なものから水平に、桜の名所にしても良いのではないか。

▲ 新たな視点

- ・公園に人が足を運ぶ環境、近郊の住民が使える環境があるとイメージが変わってくる。
- ・条例や規則等を緩和することで地域住民が利用し、閑散としたところに動態的な部分を感じられる事業展開も考えられる。
- ・森林公園駅や高速道路の出口等に百年記念塔への案内表示を行うなど、きてもらうための環境づくりが必要。
- ・この地域を日本遺産に登録してはどうか。
- ・白老の国立アイヌ民族博物館の年間入場者目標数が100万人。この地域も100万人が可能。どうやったら100万人になるか、次回に皆さんと話し合いたい。
- ・開拓の村は、賑わいや生活感が表れるような工夫が必要。
- ・馬車鉄道は走っているものの、動態展示が欠けている。
- ・ふるさと会を開催する場所として活用する方法もある。
- ・150年に併せて作業体験ができる補修整備のボランティア作業員を参加料をもらって募集してはどうか。
- ・各市町村とリンクして、開拓の村に市町村の観光関係者が時々常駐し自分たちの市町村を売り込むようなネットワークをつくれないうか。
- ・修繕が必要な建物をクラウドファンディングで募集して復興させるような周りを巻き込む動きが作れないか。
- ・これから50年、80年残せるか考えるとかなり厳しい。150年の年に作業現場を見学可能とした解体をし、2万本程度の桜の植樹をして、縦の100mから横に100mといった垂直なものから水平に、桜の名所にしても良いのではないか。
- ・開拓の村の建造物も思い入れが感じられると光って見える。解説をする人が最も重要で、なるほどなと実感させてくれるポイントを聞かせてくれる、言葉の力がある。
- ・博物館同様、開拓の村の解説員（ボランティア）もどこかで表示すべき。